

## 令和5年度 第2回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和5年9月15日（金） 13時30分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 特別活動室
3. 出席委員 山本忠雄 池谷真也 和田安彦 矢野陵子 鈴木貴子  
室内恵理香（学校支援CD）
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 細川 恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援CD（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 影山ちか（校長） 松島 歩（教頭） 石島正巳（CS担当教員）
8. 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
9. 傍 聴 者 なし
10. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒
11. 議長の選出

司会より議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

### 12. 協議事項

- (1) 学校支援CD 研修参加報告
- (2) 2学期以降の取り組みについて
- (3) 合唱参観を終えて意見交換

### 13. 会議記録

司会の教頭より、委員総数6名のうち5名（内1名遅刻）の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 学校支援CD 研修参加報告

岡本：新規CD研修に2年目以上のCDとして9名（小学校6名、中学校3名）が出席した。

研修内容は、NPO法人 スクール・アドバイス・ネットワーク理事長の講話、活動事例発表、そして1年目CDと2年目以上のCDを交えての、グループ討議を行った。

事例発表校は、赤佐小、芳川小、浜北北部中の3校。

赤佐小は、クラブ活動を全て外部講師に入れ替えたという事例発表。芳川小は、保護者を上手く巻き込んで「応援団」を作ったという事例発表。

浜北北部中は、学校支援ボランティアについてその経緯や成果についての事例発表を行った。また、CSだよりの作り方、学校支援ボランティア活動の紹介、ボランティアの募集方法、園芸部の支援活動での反省点、そして支援の成果についてお話しした。

グループ討議では、CSの取り組みはボランティアを入れることが全てではないが、入れるにあたっての順序、事前にやっておくと良いであろうこと、ボランティアとの関わり方についてお伝えした。

和田：先日、高P連の全国大会に出席した際、パネルディスカッションでCSの取り組み内容が発表された。震災の影響により人口が減っていることを危惧した仙台の高校生たちが、学校と地域を盛り上げようとする内容であった。ボランティアを学校に迎えるのではなく、高校生たちが地域の商店街などにボランティアとして出掛け、地域の人たちとコミュニケーションをとる。さらに、そこで学んだことを小中学校に出前講座をしている。生徒が地域に出てそれを地域の方が受け入れるというCSがあるということを知った。迎え入れるばかりではなく、子どもたちが地域のために発信しているという活動がそこにあった。

校長：職場体験は地元の良いところや地域にこんなことがあるんだということを体験してくる。

和田：その体験を発表する場として赤佐小、中瀬小に「中学に行くとこんなことが学べる」と発信すると「中学生ってすごい！」と小学生ながらに思うだろう。これもひとつのCSだろう。

## (2) 2学期以降の取り組みについて

岡本：今年度の職場体験は、子どもたちが希望する体験先を優先するかたちとなった。CD 2人で40件程の第1アポ取り電話を7月中旬から8月にかけてお手伝いした。今年は、9組の職場体験分も依頼を受けた。

来年はどのようなかたちでお手伝いするのか分からないが、体験先の紹介等を依頼されたら、ご協力をお願いしたい。

校長：これまで希望ではないところであったとしても、行って話を聞くという形だったが、今年から広く活動できるようになったこともあり、子供たちの希望を聞きながら進め、現在、ある程度希望するところで体験先も決まり詳細を詰めているところだ。

岡本：現在、家庭科ボランティアは、1人の方に頼り切っており、こちらの授業の都合に合わせて少しわがままを聞いてくださっている状況。調理実習も本格的に始まる段階になってきているため、1学期から室内CDに新しいボランティアを探して頂くようお願いしていた。先日、現在ボランティアが入っている授業の様子を見学に来てくださった方がいるので、その経緯を室内CDから説明する。

室内：正直、なかなか見つからなかった。紹介していただいた方もいたが、ボランティアということで難しい面があった。しかし、普段の何気ない会話からつながり、とんとん拍子で見学に来ていただけることになった。実際に授業を見学し、先生方の大変さを痛感したようで、前向きに検討してくださっているとのこと。

岡本：これから始まる調理実習等から話しを進めていきたいと考えている。

## 合唱参観のため体育館へ移動

## (3) 合唱参観を終えて

池谷：音楽的に合唱を評価するという観点からはまだまだ…というところだが、子供たちの様子を見てみるとみんな真面目だと思う。聞く態度や移動等、一生懸命取り組んでいる姿を感じることができた。本番が楽しみだ。

和田：ラストパートでこれからのまとまりに期待したい。本番は今日の何倍ものすばらしい合唱になるだろう。

室内：同じくラストパートに期待したい。

鈴木：会場の響きも影響しているだろう。当日が楽しみだ。

矢野：どのクラスも歌い始めよりも後半は調子が出ていた。このペースで盛り上がっていきだろう。こんな時期になってきているので、当日は、みんな揃って歌えるといいと思う。

山本会長：学級ごとに1つにまとまっていると感じた。結果、学年全体のまとまりにつながっているのだろう。見る側がそう感じるのだから、彼らなりにも一生懸命今日の場面を発表してくれたのだろう。今日なりの段階として精一杯の表現がなされていたのではないかと感じた。

鈴木：先日、市P連の会議に参加した。学校運営協議会と連携したキャリア教育ということで、小学校の職業体験についてだった。実際に働く人から話を聞く体験が中学校でもあるのか。

校長：1年生3学期に未来授業でやっている。本校では、地域の方ではなく「ありがとうの会」という団体をお願いしている。

山本会長：7/31に開催した小中合同交流会について感想をいただきたい。

矢野：この学校のCS活動は先生と学区で上手くつないで進んでおり、自分自身も居心地よくこのチームにいる。しかし、地域の為にCSがある、となってしまうとモヤっとする。やはり基本は学校であり、学校の教育活動の為にそこに地域が協力し、関わるのが北部中ではバランスが取れていて居心地がいい。地域から学校に入り込んでいくのはすごいことだ

が、土俵は先生たちであって欲しい。学校から地域に開いた瞬間、積極的に入っていただけ地域の方がいれば心強い部分もあるかもしれないが、先生たちがやろうとしている教育活動ありきのことなので、そこに対してお手伝いできることがある、とこちらが思うことは大事なことだが、そこを乗っ取るように入り込んでいくことが積極的な活動になってしまうと違和感を感じる。

鈴木：いろいろな方々とお話できて良い機会となった。小中との違いを感じた。

池谷：中学校の CS と小学校では当然内容の違いがあると予想していたが、赤佐小と中瀬小の活動に随分差があったが、どちらが本来なのか、そもそも CS は今後定着していくのか、とさらに考えさせられる機会となった。どうしていくのがより良い形で今後定着していくのが CD には申し訳ないが、いつも悩ましく思っている。また、学校のことを考えている方が地域にこんなにもいるんだと実感することもできた。

山本会長：2 学期以降の取り組みについて、家庭科ボランティアの厚みを作っていくということが 1 つの核として話が出ている。他の分野でもボランティア活動がますます広がっていくような発想や運営の考えがあれば教えて頂きたい。

石島：ボランティアが必要となる時期の問題だろう。

岡本：ボランティアのご都合と授業のスケジュールが上手くはまらないことがある。仕方のない部分もあるが、なるべく全クラス平等になるように入れられたらと思う。

校長：もともとは教員がやるべきこと。そこにボランティアが来ていただけるとありがたいというくらいでいい。ボランティアから更にボランティアを紹介して下さり広がっていけるといいが、誰でも良いわけではない。

石島：地域で紹介していただける方がいたら、授業を見に来て欲しい。今年は人材に厚みをもたせて授業スケジュールとの組み合わせを CD にやっていただければと思う。

池谷：部活動を地域の人たちが支えているところもあるが、どのように投げかけているのか、今後の広がりは見込めるのか？

校長：正直、なかなか指導者がいない。北部中ではソフトボール、テニス、バレー、バスケ、卓球、剣道に外部コーチが入っており、比較的地域の方が来てくれている部活動は多い。

山本会長：岡本 CD が出席した研修の添付資料に、他校の実践報告が多く載っている。いろいろな学校支援の形がある。各自お互いに勉強をしていただき、次に向けてお力添えのほどよろしくお願ひしたい。

教頭より、次回第 3 回の運営協議会のスケジュールを確認し、会を閉じた。